

# RS-485 対応ロガーの ModbusRTU 通信モニターとしての使い方

2025年2月13日 株式会社データ・テクノ

## ■■ 接続 ■■

RS-485 に対応した SD ロガーでは、ModbusRTU で通信されているラインのどこかに、SD ロガーを接続することで、通信内容をモニターするような使い方が出来ます。

SD ロガーが終端になる場合は、ロガーのターミネータを ON にして、もともと設けられていたターミネータは OFF にしてください。

## ■■ 手順 ■■

ModbusRTU をモニターする場合は、つぎのような手順を踏むと、テキストファイルで見ることが出来ます。

- ・フレーム検出機能を有効にする。
- ・エンコード機能を有効にする。
- ・ログされたファイルは、「LogConverterModbus」を使ってテキストに変換する。

フレーム検出機能	行なう。	通信で設定
フレーム検出時間	ビットレートなどにより適切な時間。	通信で設定
エンコード	*	スクリプトで設定

- フレーム検出機能 は、パソコンから設定ソフト DTMCHost を使って、通信で設定します。

フレーム検出時間はつぎの表を目安に、通信環境に応じた適切な時間を設定してください。

ModbusRTU の仕様でフレームの終了は、3.5 バイト分の通信時間、ただし下限 1.75ms とされています。

ビットレート	フレーム検出時間
[bps]	[ms]
115,200	1.75
57,600	1.75
38,400	1.75
19,200	1.86
9,600	3.72

- エンコードの設定は、スクリプトにつぎの 1 行を、記述してください。

```
#f:ENCODE *
```

スクリプトは SD ロガーに装着する SD カードに、「SCRIPT.TXT」または「SCRIPT.SCR」というファイル名で、記述してください。

またスクリプトは、ロガー本体に保存することもできます。詳しくは SD ロガー5 の取扱説明書をご覧ください。